

研究雑話 (76)

人間発達の物質的基礎 (四〇) … 論議 (十一)、課題の設定、「用途」を基礎にイデーにまで。

藤井力夫

前回は、じゃんけんあそびを例に、子どもたち相互における付点八部音符の役割についてお話ししました。子どもたち自身のリズムがあつてのことなので、「相互引き込み」ということばを用いました。走に代表される八分音符の持続が、付点八分という変化をつくり、これによる裏拍の短い「間」が、両者の行為を対置させたのでした。互いの気持ちの理解も、こうしたやりとりのなかで深まります。「自己と物」、「自己と他者」といった関係だけでなく、「物を媒介とした自己と他者との関係」が問われはじめます。この間、紹介してきたRくんは、これらをどのように自分のものにするのでしょうか。物のあり方、使われ方に対するRくんからの発見や工夫が重要となります。今回は、それを促す場面や課題の設定をめぐってお話したい。用途を自分なりに工夫できれば、それは、「概念」に止まらず、「観念(イデー)」への発展を約束していると

表は、Rくんの担任の先生にお聞きした今年度の指導計画の概要。参照下さい。ここでは、脳神経というブラック・ボックスからみたRくんの課題について、基本的なところを概括しました。リズムと同期…①道具を使える足腰。まず、ぶら下がり、どの程度可能か。②動作の持続による自己に関する「内的空間認識」、姿勢反射の統合。③手足の共同運動の習熟による「予期的準備能」の形成、ボール操作等。④拍節リズムの聴覚的受容とリハーサル、わらべうた等。

知覚と行為…①作ったもので遊ぶ。遊びたいから作る。②用途を基礎に違いを学ぶ。例、大小概念、「カレライスには大きなお皿」など、用途との結合。③レゴのような積み木を使って、イメージを実現。縦、横、高さの配列。家、飛行機等。④描画は作業記憶の課題。動作、内外・上下。自然な運筆からどのように基底線が生まれるか。ことばと叙述…①ことばの韻律、拍節リズムを大事に。わらべうたや昔話が有効。②歌では、出だし部の音高の安定が重要。たとえば、「ひーらいた」の「ひー」、長音を自然な高さで持続できるような指導。③拍節リズムの習熟のなかで、助詞などの付属語も自然に生成されよう。④想い出しの言葉を引き取る。(北海道教育大学教授)

Rくんの発達課題 (99年度の指導計画、小学3年生)
(R, m. 8.05 yrs. old, 前掲、自閉的傾向、障害児学級)

A. 全般的な課題

- 1)、人との関わり：他の子どもとの関係で自分の気持ちを表現する機会を多く用意。例：鬼あそび。狼の帽子をかぶった人が鬼。自分が追いかけられたくて、同年齢だけでなく、年下の子どものうちよっかいを出すようになった。但し、相手の子どもの状況、折り紙しているなど関係なく、狼の帽子をかぶせている。
- 2)、日課の流れ：日課の流れに固執する傾向がある。そっっていると安定。ゆったりした流れのなかで、2時間おきぐらいに予定を知る。子ども自身が満足し、期待して、次の日課に移っていく。

B. 学習指導の課題

- 1-a)、10までの量と数、偶数：給食時の食器や、学習時のはさみやのり。人数分にとって、みんなに配ることができる。2、4、6といった偶数にも挑戦したい。
- b)、5までの加算、4の概念：ポーリング・ゲーム(6本) 2回分の倒れたピンをまとめ、数えることができる。1本と1本で2本、1本と2本で3本は分らないで、一目で分かるような工夫をしたい。
- c)、引き算、1つ食べたら：3つのみかんから1つ食べたらいくつ残るか、などにも挑戦したい。
- 2-a)、描画、レントゲン描法：楽しい体験を思い起こし、頭に描いた場面を線で描く。楽しかった動作、人や物の大小、家の中や外、上と下など、ことばでイメージを聞き出すのも大事。また、基底線が引けない問題は、地面という感覚が無いからかも知れない。外遊び、土いじり、洗った後のすっきりした感覚、等。
- b)、造形、組立あそび：作ったもので遊ぶ。そのため、道具を使う。レゴ・積み木を使って、家、乗り物など作る。縦・横・高さの組立てが大事。
- 3-a)、ことばの韻律、絵本：集中して聞くことができるようになってきた。「おむすびころりん」、「さるかにがっせん」、昔話が好き。場面の状況、次への期待。ことばの韻律、／おむ・すび／ころ・りん／すっ・とん／とん・／など、リハーサルを多くしたい。
- b)、文字の世界、読み：「りんご」、「たいいく」、「さんすう」等、拾い読み・続けて言える。
- c)、動詞、シntagマ関係：動作。反対・類似。絵を使い、「くつをはく」、「ふくをきる」、「ぼうしをかぶる」など基本語を自由にしていきたい。
- 4)、音楽、拍節リズムと助詞：日本語の韻律と拍節。／ひー・らい／た・／など、出だし部の音高の安定に注意。抑揚が自然に助詞を生成するようにしたい。
- 5)、体育、姿勢の保持と動作の持続：手足の共同運動の増強。基本に戻り、ぶら下がりなど上肢による姿勢の保持と、歩行・走、跳躍などの動作リズムの持続。
- 6)、食事、いろんなものを食べる：にぎり箸(スプーン把握様)、クレヨンをもつ感じで持つ。